

2024年度 新規事業 説明（案）

多機能型地域生活支援拠点

（仮称） G-square

（社福）しが夢翔会
木村 和弘

〔 新規事業に至る背景Ⅰ 〕

- ・入所施設の課題

重度、高齢化 強度行動障害のある利用者さん像の方と高齢、重介護、一部要医療の必要な利用者さんの混在した環境

＊ 唯一の入所施設としての24時間の支援の中でその役割を果たしてきているが、利用者さん個にとってのよりふさわしい環境となっているか？ オールマイティではない入所施設の課題

- ・地域の課題として

地域の実情においては近年、GHが増加傾向となっているが、行動障害の状態を含む重度の障がいのある方の住まいの場の不足状況は依然として課題が大きい。また老障支援の状態のご家庭など含め、短期入所の利用ニーズはより増大している。

〔新規事業に至る背景Ⅱ〕

- ・入所待機者の課題(夜間支援のニーズ)

(地域における夜間支援機能(短期入所)の役割の確認)

そもそも...(短期入所のサービス概要)

居宅においてその介護を行う者の疾病その他の理由により、障害者支援施設、児童福祉施設等への短期間の入所を必要とする障害者等につき、当該施設に短期間の入所をさせて、入浴、排せつ及び食事の介助その他の必要な支援を行う。

(現実的には様々なニーズが地域にはある)

- ・利用の長期化(いわゆるロングステイ状態～暮らしの場に)
- ・定期利用(定期的な利用により地域生活が維持継続、充実安定)
(本人目的／レスパイト目的)
- ・緊急時の受け入れや対応
- ・学齢期等の体験の機会として
- ・行動障害等を呈する利用者の支援(アセスメント、見立て)目的

〔 何が必要か？ この数年間で検討してきたこと 〕

住まいの場所／活動の場所／本人に合わせた環境・暮らし方

- ➡ これまでのガルでの実践、利用者さんの「ニーズ」「願い」を通じて
グループホーム整備計画 図面検討

地域で支えることのできる機能

- ➡ 障害者自立支援協議会 住まいの場の検討会 多機能拠点Proにおいて、地域生活支援拠点における地域に必要な資源、機能の検討／提言

職員の専門性の向上（採用、育成、処遇、組織力） 今後も継続

- ➡ 日々の24時間の実践、自閉症・行動障害のある方への支援 かほんの機能

入所施設の変容

- ➡ 再編へ（ガルが設立より26年、唯一の入所施設として、より地域でお困りのニーズに応えてきました。平均年齢も上がりました。改めてそれぞれの利用者さんにとってより良い暮らしを創造していくための変容、変革の時期。

ニュース

障害者が安心して暮らせるまち 大津でシンポ、課題共有



シンポジウムで、障害のある長男の介護について話す中西さん（大津市・大津市民会館）

障害者の住まいの支援を考えるシンポジウム「みんなでつくる 誰もが暮らせる大津」が10日、大津市の大津市民会館で開催された。

生活に支援が必要な障害者で住居の見つからない人は同市で100人以上いるといい、暮らす場の整備をどのような形で進めていくかを、障害者の自立支援にかかわる関係者や保護者、障害者も参加し考えた。

シンポジウムには約190人が参加。午前中は、木津川市を拠点に京都市南部で障害者のグループホームを運営する「京都ライフサポート協会」の樋口幸雄理事長が、取り組んでいる重

い行動障害のある人への生活支援について紹介した。

午後からは、大津市内の障害のある子を抱える保護者や障害者が死後、てんかんの後遺症がある長男（43）を自宅で介護している中西千恵子さん（71）は、夫が風呂で介護中、転倒する皇子を支えきれずけがをするなど、家庭での生活を紹介。将来に向け「ぜひ大津に安心して暮らせる場をつくってほしい」と訴えた。

このあと市内で障害者のグループホームを運営する法人が課題を報告。障害が重度だったり、行動障害のある利用者の生活を地域で支えるには、医療機関や相談支援機関との連携拠点となる多機能なケアホームが必要、と課題を共有した。

【2017年07月10日 22時50分】

Copyright (c) 1996-2017 The Kyoto Shimbun Co., Ltd. All rights reserved.

各ページの記事・写真は転用を禁じます。著作権は京都新聞社ならびに一部共同通信社に帰属します

[ネットワーク上の著作権について](#) [新聞・通信社が発信する情報をご利用の厳禁に](#) (日本新聞協会)

[電子メディアおよび関連事業における個人情報の取り扱いについて](#)

【大津市障害者自立支援協議会】

○住まいの場のこれから検討会

・2015年から検討会の実施

・2017年大津市へ提言書作成
(具体的な住まいの場の提案など含め資源整備に向けて)

○多機能拠点プロジェクト会議

・2019年から地域生活支援拠点の会議として継続議論

・2020年～21年には生活介護の利用者さんを対象に住まい等に関するアンケート調査を実施。

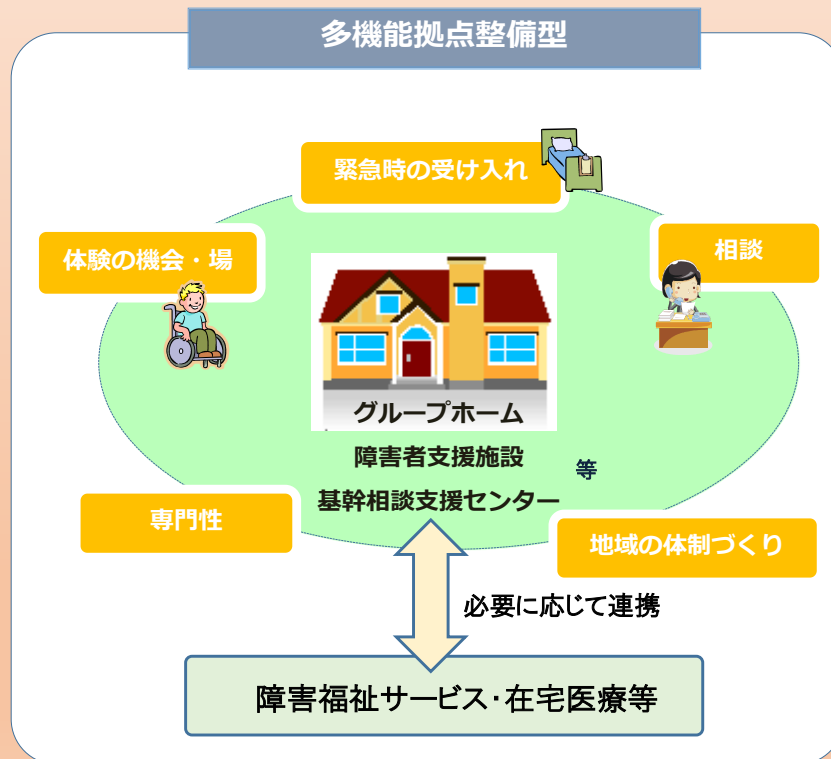
改めて、地域における住まいの場の不足状況や切実な課題が明確になる

●地域生活支援拠点等の整備手法（イメージ）

※あくまで参考例であり、これにとらわれず地域の実情に応じた整備を行うものとする。

地域生活支援拠点等の整備について

障害者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能（相談、体験の機会・場、緊急時の受け入れ・対応、専門性、地域の体制づくり）を、地域の実情に応じた創意工夫により整備し、障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築



6

各地域のニーズ、既存のサービスの整備状況など各地域の個別の状況に応じ、協議会等を活用して検討。

【事業の柱 - 目的 -】

square

個別ニーズに基づいた
「ふさわしい暮らし」の
カタチへ

- ・ 入所施設で完結しない暮らしの広がりへ
～ 無理のない地域生活への移行 ～ 段階を踏んだ施設の地域化へ
- ・ 入所施設の過密状況の緩和～個別ニーズに基づいた再編

地域のニーズ(実情)に
合わせた住まいの場の
資源整備

- ・ 重度の障がいのある人の「住まいの場」の整備
- ・ 行動障害のある人の地域生活のモデルづくりへ

地域生活を支える
短期入所の有目的機能

- ・ 地域での暮らしを支える短期入所のアセスメント機能
～(仮)市・強度行動障害短期入所受け入れ特別支援事業～(検討中)
- ・ 緊急時の受け入れ ～地域生活支援拠点居室確保事業～

【事業の4つのコンセプト】

square

安心して
暮らす

専門性を
広げる

地域と
つながる

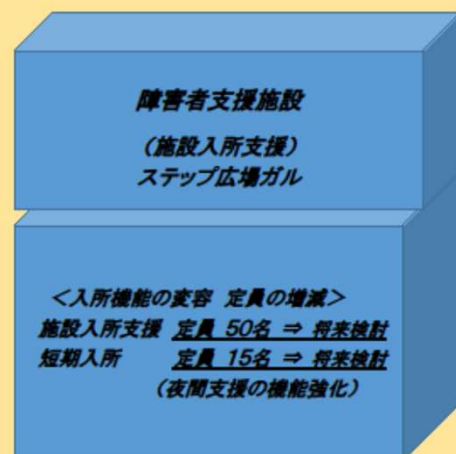
人が育つ



「多機能型」地域生活支援拠点（案）整備のイメージ図 ～ 地域ニーズに基づく入所機能の変容と施設の地域化 ～ (2019.11.22 ステップ広場ガル 資料 2022.7.01 一部改訂)

<目的 第1次>

- ・地域生活支援拠点における（重度対応型）グループホームを中心とした多機能拠点の整備
- ・地域の実情に合わせた住まいの場の資源整備
- ・入所施設での個室ユニット型の支援から、より個別ニーズに基づいた「ふさわしい暮らしカタチ」の実現
- ・入所施設の過密状況の緩和と少人数化



<ガル独自の機能>
ヘルプ兼任支援員

<ガル独自の機能>
看護師の配置

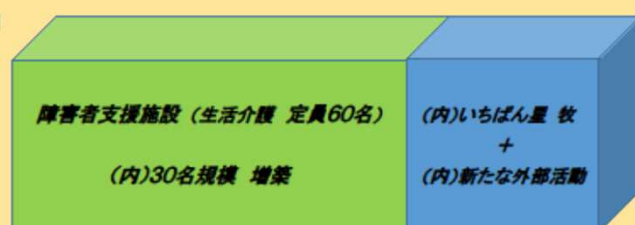
「個」にふさわしい暮らしの場
施設入所からの移行（8～10人程度）

<バックアップの機能>
緊急時の対応／防災、防犯対策

<拠点の機能>
専門性

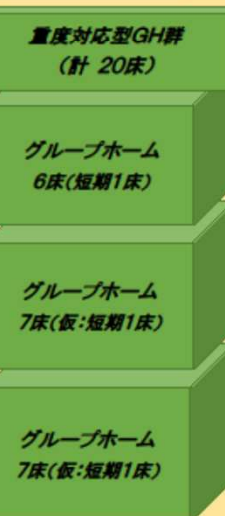
<地域の専門機能／ガル独自の機能>
発達障害者支援センターかぼん／自閉症・行動障害SC
アセスメントベースの支援の体系化

社会参加のための地域サービスの活用
(地域生活支援事業／行動支援等)



地域からの受け入れ

<拠点の機能>
緊急時の受け入れ



<目的 第2次>

- ・入所施設の機能の明確化 ～入所施設のハイブリッド化～
- ・地域支援における短期入所機能（夜間支援機能）の拡大
- ・相談支援機関及び専門機関との機能体制強化

<拠点の機能>
相談「みゆう」連携

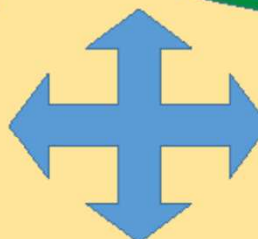
地域医療との連携（下支え）

地域からの入居（6～8床+短期・体験枠3床）
(圏域における、住まいの場の不足状況の緩和)

<拠点の機能>
地域の体制作り

<拠点の機能>
体験の機会・場

地域モデルへ



- 青色 ⇒ 既存施設
緑色 ⇒ 新設施設（拠点整備）
オレンジ色 ⇒ 地域生活支援拠点の機能
灰色 ⇒ 独自機能

〔 計画の概要 I 〕

【 事業内容 I 】

● 重度対応型GHの整備

定員7人／定員7人／定員6人（各短期入所枠 1床含）

計3グループホーム（20床想定）

＊利用者状況により1ユニットあたりの人数は短期入所・体験枠と合わせて調整

〔 利用者想定 〕

○ ステップ広場ガルから新規GHへの移行 ⇒ 6～9人程度を想定

○ 地域からの入居受け入れ ⇒ 8人程度を想定

○ 短期入所(中期・アセスメント・体験・緊急等) ⇒ 3床(設置上・各ホームに1床)

＊GH運営の類型は内部包括型

【 事業内容 II 】

● 生活介護活動棟整備

平屋建て／(入所者の日中活動の場所及び地域からに通所を想定)

＊障害者支援施設の増築として実施

〔 計画の概要Ⅱ 〕

【 地域生活支援拠点の機能 】

- ① 緊急時の受け入れ(面的整備における短期入所の機能活用)
- ② 体験の場(体験入居及び一定期間のアセスメント等の目的を明確にした短期入所機能：(仮)市・強度行動障害短期入所受け入れ特別支援事業)
- ③ 人材の育成の場
(ステップ広場ガル・新設グループホームにおける連動した人材育成の機能)
- ④ 相談支援(専門相談「かほん」の機能／一般・計画相談「みゅう」との連携)
- ⑤ 地域の体制作り(地域生活支援センターとの連携／自立支援協議会の参画)

〔 計画の概要Ⅲ 〕

【 特に重点的な機能として 】

① 発達障害者支援センターかほん(地域支援課:旧行動障害サポートセンター)の専門機関としての機能の拠点化

- ・ アセスメントベースの支援の体系化
- ・ 地域全体の支援の質の底上げのための研修の体系化)

② バックアップ施設(ガル)との連携 (応援支援体制／災害・防犯対策)

その他、法人内グループホームの緊急時のバックアップ機能
看護師の配置／ヘルプステーションの活用等を今後具体的に検討

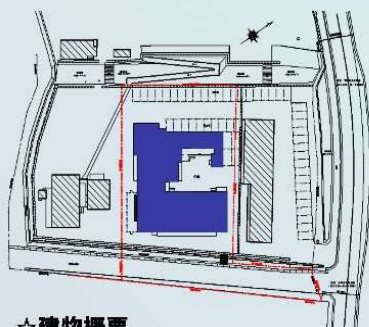
〔 計画の概要Ⅳ 〕

【 その他 】

- ① 地域に必要な資源として整備されるよう、法人内での検討と並行して大津市自立支援協議会での検討の場を並行して進める。
- ② 市、県の理解と協力が必要であり、地域にとって必要な資源として整備が進められるよう協議を重ねる。
- ③ ご家族の理解と説明、地元地域の理解が進む形での経過が必要であるため随時、必要な動きを行う。
- ④ 入所施設の地域化、重度の障がいのある人が地域で暮らすためのモデルとなるよう計画を進める。

「ひらく・ひろがる・暮らしへ」

～ 地域の24時間を支える専門機能 ～



☆コンセプト

重い知的障がいのある方それぞれが「その人らしく暮らす」を創造します。
入所施設から地域生活へ ひらく・ひろがる 道筋の第一歩です。
そして、地域全体での支援力の向上と支える機能をより強化していくことも重要な役割と成ります。
「地域」+「障がいのある方」がつながる延長線上に、そんな「拠点」でありたいと考えています。

☆建物概要

主要用途	多機能型地域生活支援拠点 (3つのグループホームを併設)
敷地面積	2,588.88㎡
建築面積	762.50㎡
延べ面積	1,145.04㎡

☆室内鳥瞰、用途説明図



- ① 「一人暮らし」と「シェアハウス」を可能にする居室配置、感染対策に向けたゾーニングも可能。
- ② 障がい特性に応じた生活動線と複数の玄関

③・④ 過ごしに合わせた2つのリビング

③ 食堂・リビング 1



④ 食堂・リビング 2



高齢の方に対応できるGH



⑤ 安心して介護が受けられる快適な過ごし。

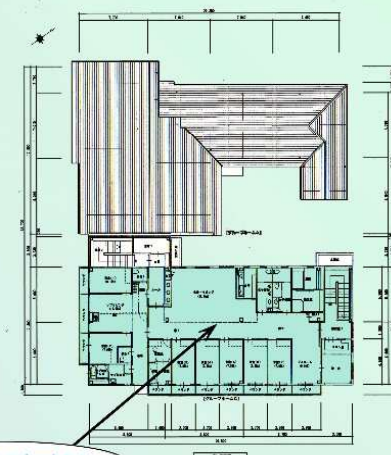
⑥ 理想の住まいを体験、困りごとの相談、地域、学校にもノウハウを届ける。



⑦ 看護師による健康面でのサポート。

⑧ 地域の人が気軽に立ち寄り、場所を活用できる地域交流広場。

☆季節行事・地域交流イベント



自閉症の方に対応できるGH

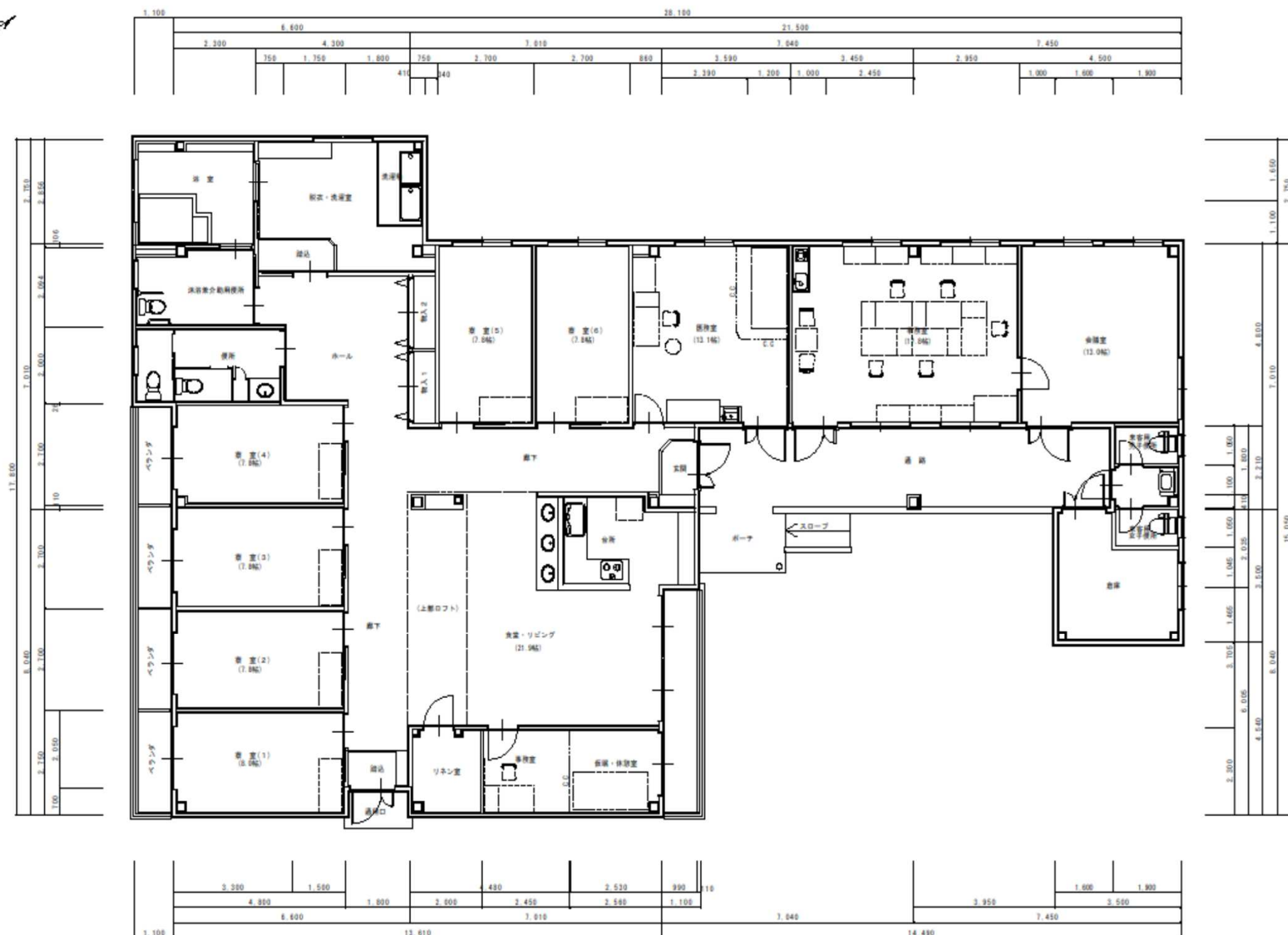




(名称)多难地区典型地质灾害防治工程 建设计划



分類號 登錄號 168.277 冊 宣 武 區 立 圖 書 館 藏



建築面積：351.50㎡ 106.33坪

延床面積： 346.38㎡ 104.78坪

2 3 4

(名稱)多機能與智慧型地域生活支援施設 建設計画



アール設計事務所

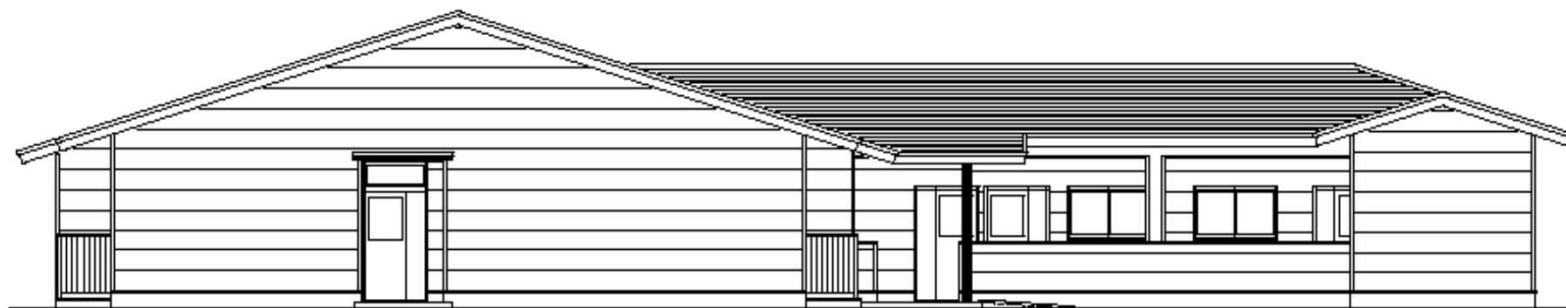
1. 總體情況 2. 發展趨勢 3. 主要問題 4. 政策建議

グループホーム ③

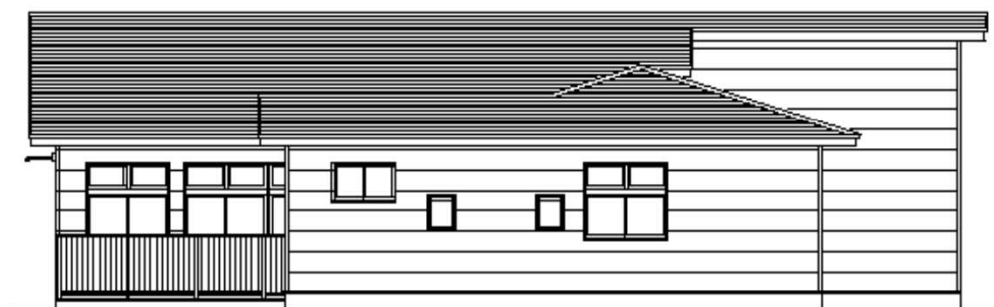
半圓圓	A1: 5 th / 20 A2: 5 th / 100	無誤
-----	---	----

		社團
--	--	----

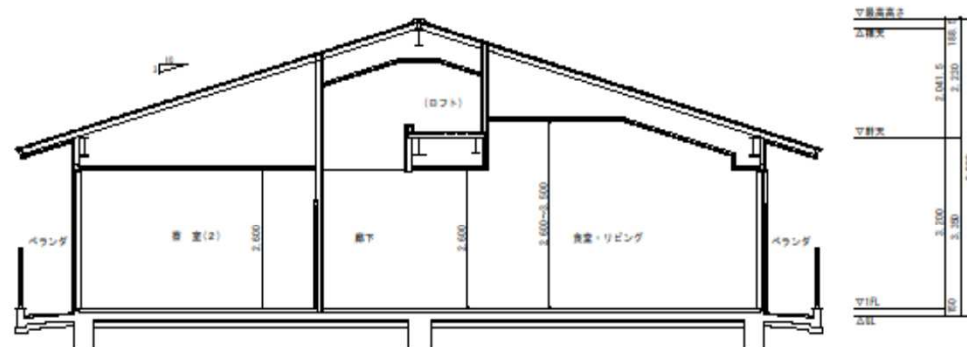
07a-01-1



南東側立面圖



北東側立面圖



新 聞 聞

守備高水	2.041	5
二橋天	2.230	165
守割天	2.100	
守孔	2.284	
五段	2.60	

2	8	6
---	---	---

(附件)多機能拠点型地域広域支援施設 建設計画アール設計事務所

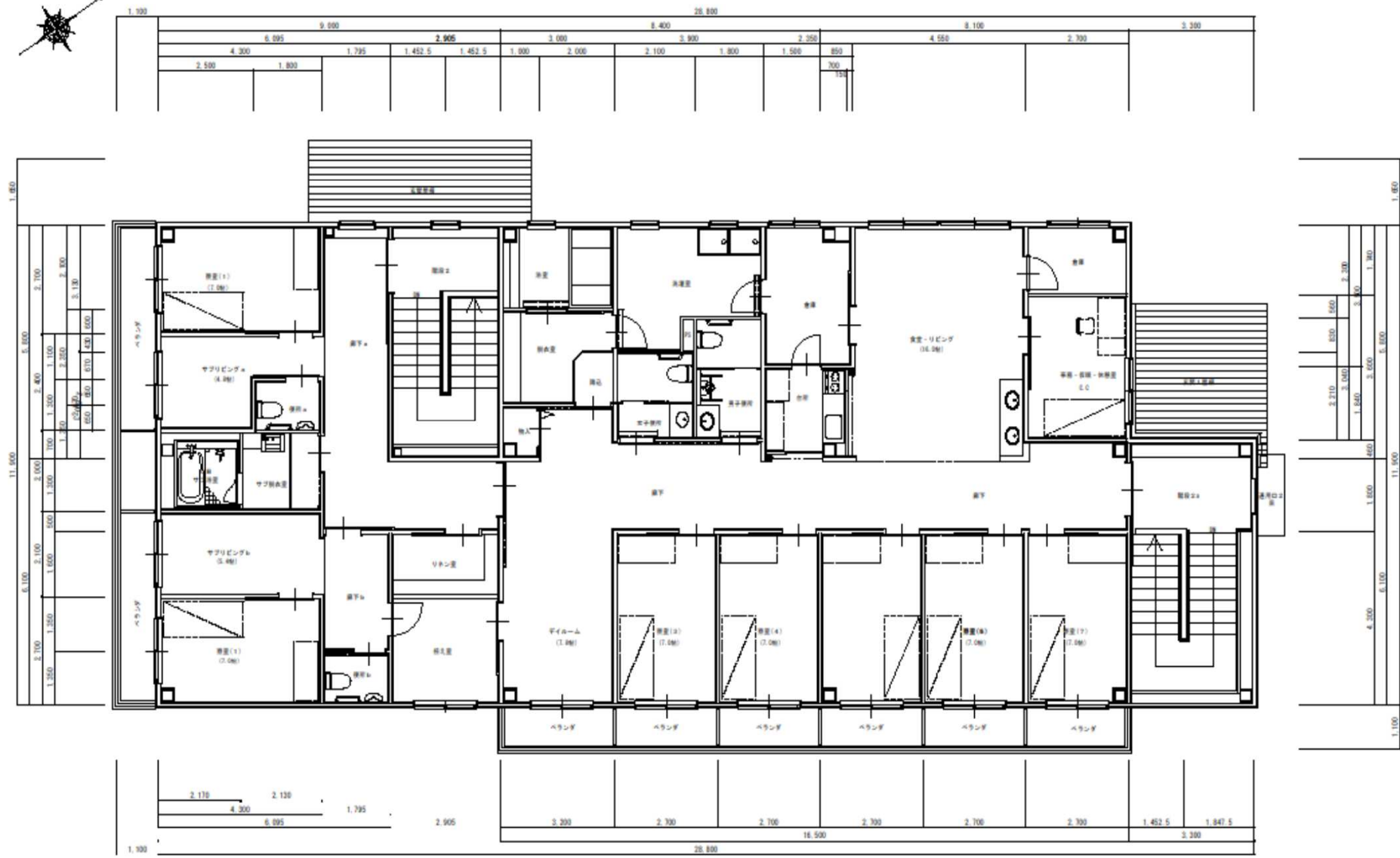
1. 總體情況：本報自1987年7月22日創刊以來，承蒙各界人士的支持與愛護，業務發展迅速，現已成為本市最具權威性的新聞媒體之一。

グループホーム様 ③

点位数 (个)	41
	43

点阵图 (1)	
---------	--

2022-06-10[illegible]計開：

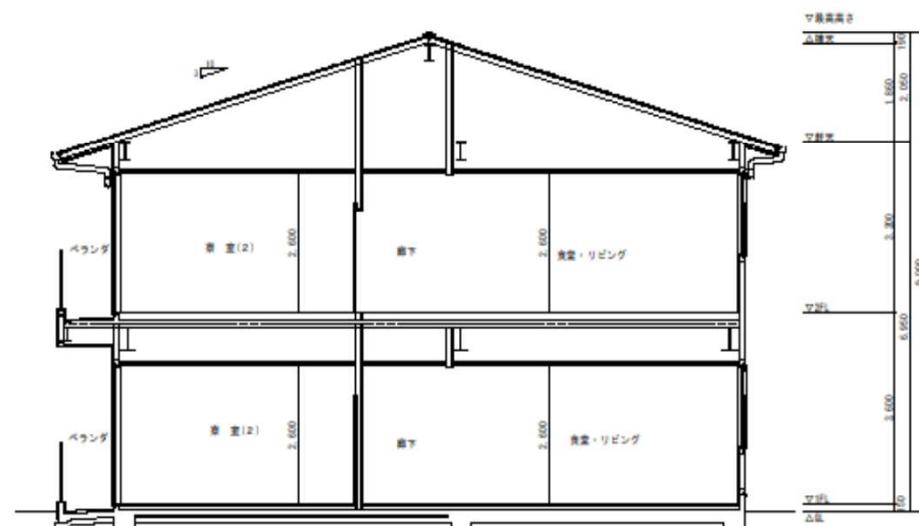




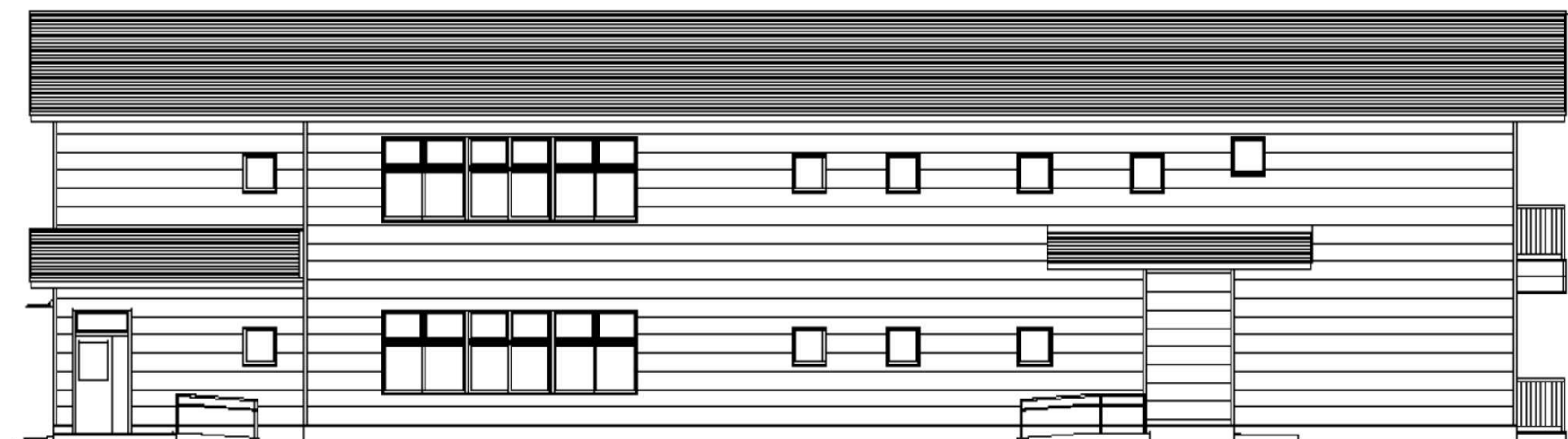
北東側立面図



南西側立面図



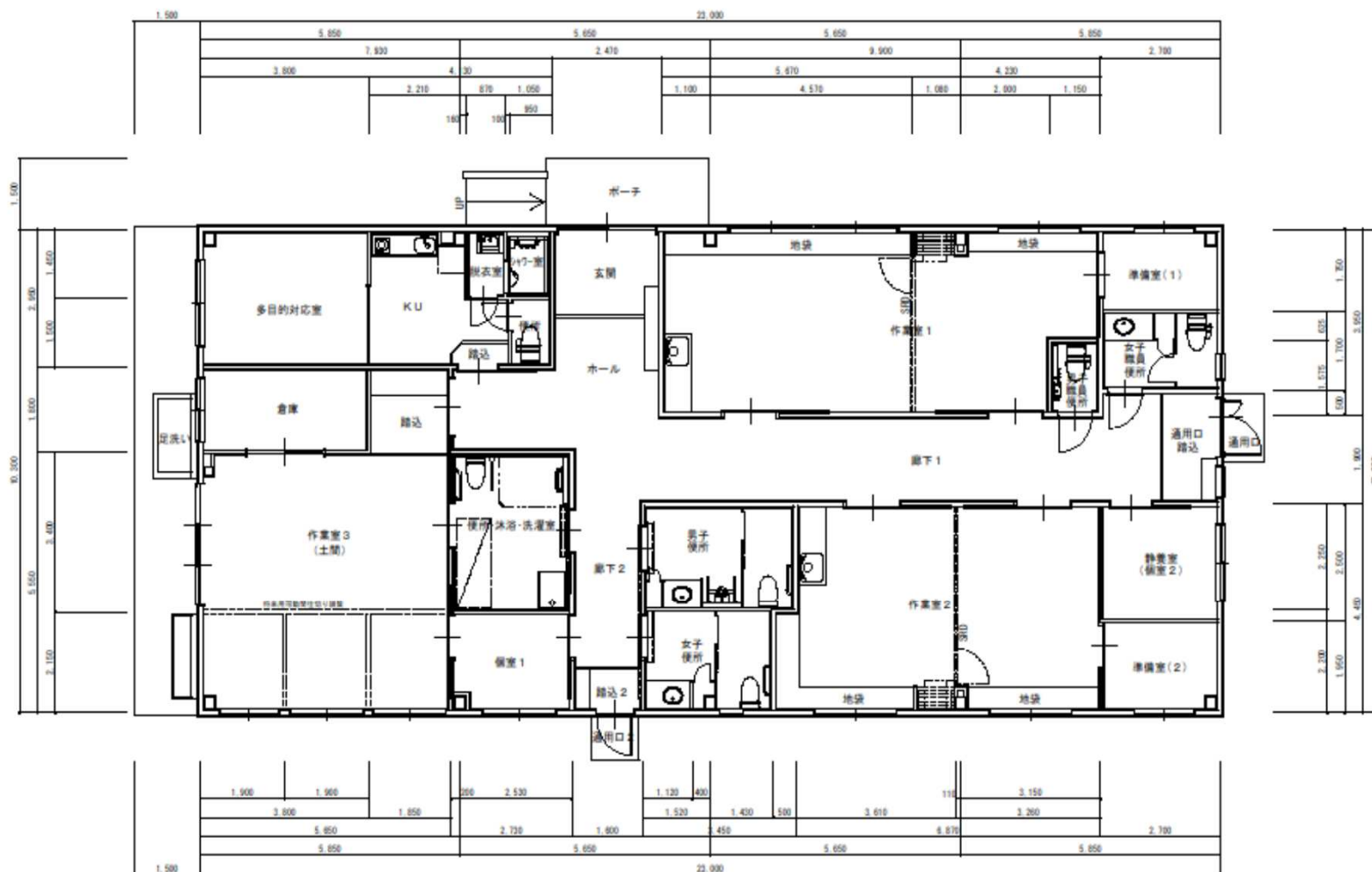
断面図



北西側立面図



南東側立面図



建築面積 : 244.88㎡ 74.07坪
 延床面積 : 236.90㎡ 71.66坪
 一階床面積 : 236.90㎡ 71.66坪

工 事 名

(仮称)多機能拠点型地球実生活支援施設 建築計画



アール設計事務所

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-2-1 10F

全図合図枚数

全 図 数

2024.10.10

001

00

時期/内容	2021年			2022年				2023年				2024年			
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
進行状況															
申請関係															
他 書類関連															
建築関係															
計画・設計・工事															
職員体制															
異動・配属等															
採用計画															
入所調整															
内部候補(入所から移行)															
外部候補(新規入所)															
情報伝達・共有															
内部(法人内・後援会・家族会)															
外部(関係団体・地域・行政)															
市・自立支援協議会pro															
資金計画 (予算・補助金・借入)															
法人全体の動き															
時期/内容	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
	2021年			2022年				2023年				2024年			



福祉施設整備計画
(大津市に提出関係書
類含:バ切 10/7)

大津市(ヒアリング)
追加資料等作成提出
資金計画等・協議

国庫補助
内示・決定

GH契約書・重要事項
説明書等 作成～契約

設計図面(案)検討～確定
設計見積もり2021(案)

設計図面・再確定
設計見積もり2022(案)・確定

建築許可申請・証明(43条/60条)
土地調査・測量等調査

工事入札(7月)
工事前打ち合わせ

建築工事(工期6～7ヶ月)
3月完了検査～引き渡し

行動障害支援者養成研修の計画的受講(重度障害者支援加算に伴う)

職員体制想定・検討開始～勤務想定確定/人員配置・勤務シミュレーション精度のアップ

配属決定

職員採用計画 → 法人全体で2023年度(新卒5名)/2024年度(新卒6～7名)の採用を計画
職員育成・研修(職能要件・管理職運用統一/各職員の役割～担ってもらう役割の明確化)

内示(早め)

ガル内入居者居室移動
新規入所受け入れ

○ガルからのGH入居者候補～ホーム移行者の調整・確定
(6月～9月前期)～10月入所者決定～準備

○外部利用者候補～ホームへの入所調整
(自立支援協・行政)3月検討～9月決定～準備
○ガルへの新規入居者及び空床ロング利用調整

入居

家族会役員会・全体会/法人後援会
法人内・事業所内職員向け計画概要・ビジョンetc

(例)「法人のビジョン・ミッションは何か」
職員向け 理事長タウンミーティング研修
家族会・後援会等進捗経過報告

外部関係機関及び関係団体への事業計画の周知・プレゼン⇒以降、進捗経過報告
(大津市障害児者と支える人の会/市・自立支援協議会各関係会議/学区地域)

生活介護利用者(特に重度知的
及び自閉症行動障害)に向けた
アンケート調査の実施

地域における多機能機能拠点の機能協議
「専門機能のあり方・役割」

建築資金計画(イニシャル)/3ヵ年収支想定(ランニング)etc
国庫補助申請(大津市施設整備)準備
大津市×法人協議を進める
福祉医療機構・銀行等相談及び資金計画

準備室立ち上げ

法人事業計画/経営計画に沿って、各事業運営(収支含む)について真剣に考える(中期ビジョン・計画)

2024年度
総合支援法
見直し
報酬改定

4月
以降
開所



社会福祉法人

しが"夢"翔会